教員地域貢献活動支援事業（協働型）

（新規）

新港地区発のヨコハマ“もの”&“コト”の共同開発

提 案 者 ▶ **株式会社横浜インポートマート（以下 YIM）**
研 究 者 ▶ **国際総合科学部 経営科学系　教授 中條祐介**

地域課題

平成26年度から平成28年度にかけて、株式会社横浜インポートマートと連携し、「横浜ワールドポーターズ・新港地区活性化に向けた学生視点の導入」に取り組んできた。この活動を通じて、横浜ワールドポーターズの魅力と課題、また新港地区の抱える課題について把握することができた。具体的には、みなとみらい21地区の整備が進むこと、複数の商業施設が開発され、施設間の競争が激化し、個店の魅力づくりでは限界があり、面として魅力を課発することが活性化に欠かせないということである。

このような問題意識に立ち、株式会社横浜インポートマートや新港地区に店舗を構える企業間で新港地区新港連絡会を立ち上げ、面としての競争力強化に乗り出したところである。桜木町駅、みなとみらい駅などの最寄り駅から相対的に距離があり、物理的ビハインドを負っているものの、ベイビューや歴史的建造物は数多く、潜在的な魅力はまだまだ開発の余地があると考えられる。これらの魅力の掘り起こしと魅力づくりが新港地区の活性化に不可欠のであると認識している。

課題解決の方法

新港地区の主たるターゲット層は若者であったが、近年では収容能力の高い駐車場を備えていることで、ファミリー層の来場も増加している。新港地区で提供できるコトを開発することで、顧客ターゲットの多様性を高め、全体的な来場者数の増加につなげることが期待される。また、コトと連動させたものの開発を行うことで、購買行動にシナジーが生じることが期待される。そこで、以下の取組を行う。

1．新港地区の潜在的な魅力について、歴史的な経緯や市場調査など多面的に調査を実施する
2．上記1.の調査に基づいて、新港地区の魅力を伝えるストーリーを構想し、コトづくりの材料とする。
3．上記1.の調査と2.のストーリーに関連させたものづくり（商品（特に食品）を構想）に取り組む。
4．上記の取組に効果を検証し、次のフェーズで改善活動を行う

実施内容

5月　過年度までの活動を元に、活動全体のテーマ設定を行う。
8月　ゼミ生がより活動に対して理解を深めることができるよう、実際に現地に赴く夏休みフィールドワークの実施。フィールドワークをもとに各班で企画案を練る。企画案を元に打ち合わせを行い、案の再構築を行う。
9月　ゼミ合宿にてゼミのOBOGに活動に対する意見収集とゼミ生全体でのミーティングで活動の相互理解を深める。商品企画案の練り直し、継続して協力企業探しを行う
10月　冬企画（ワークショップ）の準備
12月　ワークショップの開催

成果・効果

新港地区の歴史を継承するという目的を達成するために、実際に博物館などに足を運ぶ中で歴史の有用な知識を得た。また、学生ならではの視点で新港地区の魅力を発信できる企画の発案を行った。12月２日には家族連れを対象としたワークショップイベントを開催し、“コト”だけでなく“もの”開発において有用なデータを得た。

今後の課題と展開

〈今後の課題〉
“もの”開発における提携企業の開拓

〈今後の展開〉
平成29年度の研究成果を踏まえ、次年度は”もの”開発を本格的に展開していく予定である。

夏合宿（マホロバマインズ）

夏合宿（イベント、商品企画についての報告）